
一片の物語

夜来香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一片の物語

【Nコード】

N1041D

【作者名】

夜来香

【あらすじ】

寒い冬の始まり。授業中に教室内を見回していた少年は、隣の少女に目を止めた。ほんの些細なショートラブ(?)ストーリー。

蒼く晴れ渡った空は、果てしなく広大でいて。その中を白い雲が
気持ちよさそうに泳いでいる。

爽やか、という言葉がぴったり当て嵌るだろう。しかし、時折吹
く冷たい風は、皮膚に突き刺すような痛みを残していく。

もう冬だな。

ぼんやりと窓の外を眺めながら、響谷真は思う。

今の時刻は9時21分。授業中ではあるが、授業を集中して受け
ている者などごく少数で、大抵は彼と同じようにぼうつとしていた。
あるいは、おしゃべりに勤しんでいるようだ。

先生は先生で、そんな生徒の事などお構い無しに、ずらずらと黒
板に文字を書いている、呪文としか思えない解説を口にしてている。

「つまんねー」

誰にも聞こえない程度に呟くと、彼は教室内のクラスメイトの観
察を始めた。

ふらふらと視線を漂わせている内に、ふと隣の少女に目を止めた。
彼女はまるで敵を見るかのように黒板を睨みつけて、解説を聞いて
は納得したように頷いて、それらをノートに書き込んでいる。

真面目だな……。つかこの呪文のような解説で理解出来ん
のがすげえ。

彼は素直に感心して、しばらく隣の少女を見つめていた。少女は
相変わらず黒板とノートを代わりばんこに睨んでいたが、突然、持

っているシャーペンを焦ってカチカチ鳴らし始めた。その顔は少し蒼ざめている。

どうしたんだろ。いきなり焦り始めて…？

彼が不思議に思っていると、

「ねエ、響谷くん」

透んだ、心地よいソプラノの声が聞こえた。

あまりにもいきなりだったので、ぼつちり目が合ってしまった。真っ直ぐとこちらを見る茶色の瞳が、吸い込まれそうなほど綺麗で、思わず赤面してしまった。

「な、んだよ」

「シャーペンの芯。無くなっちゃったんだけど…持ってない？」

何だ。それだけか。

妙に期待してしまっていたので、その分落胆が激しい。というより落ち着いて考えてみれば、何を期待していたんだ、と自分で自分が情け無くなってくる。

「芯は持ってねえけど…もう一本シャーペン持ってるぜ。それ貸すよ」

一生懸命動機を抑え、平静を装って答える。が、やはり恥ずかしくて、突っかかったような物言いになってしまった。

少女は少し驚いたみたいで、目をぱちくりさせていたが、やがて「ありがとう」

満面の笑みで言った。

それからしばらくの間、彼が顔を真っ赤にして俯いていた事は言うまでも無い。

(後書き)

こんな拙い文章を読んいただきました、ありがとうございます。
高校へ入学して最初に書いたお話です。少しでも楽しんでいただけたなら、とても嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1041d/>

一片の物語

2011年1月26日01時28分発行